

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway
Gordon (Sydney) N.S.W. 2072
PO Box 292 Lindfield
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au

http://www.hongwanji.com.au



2019年度のお盆法要を つつがなく終えました！



お盆法要にお参り下さった皆様：(後列左より)渡部頌君、フONG・ノーマンさん、渡部由信君、斉藤真由美さん、斉藤直子さん、シャーマン・ジョナソンさん、上野ウオング理佳さん、渡部由紀美さん、渡部鈴ちゃん、(前列左より)グスナー多恵さん、渡部開教使、三井ブラウン綾子さん。(11/08/19)

去る8月11日に、今年度のお盆法要を、12人のご縁ある皆様と一緒に開教事務所にてお勤めすることができました。

今回は、初めてお参り下さったインターナショナル着物クラブシドニー代表で、ご子息が大リーガーと成られたこというグスナー多恵さんが初めてお参り下さり、三井ブラウン綾子さん、斉藤真由美さん、上野ウオング



お着物を召されてお参り下さったグスナー多恵さん



お盆法要のお荘厳、手作り和菓子が供えられたご本尊。(11/08/19)

理佳さん、斉藤直子さん、シャーマン・ジョナソンさん、フONG・ノーマンさんといったいつもお参り下さる皆さんとともに賑やかなお盆法要をお勤めすることができました。

皆さんを歓迎する言葉の後『念仏』を参列者全員で歌い、その後『阿弥陀経』の読経を致しました。

そして、一人一人にお焼香して頂いた後、最初に子供達へお盆の起源となつたお話しをしました。

お釈迦様がご在世の頃、10人の秀でたお弟子さんがおり、その中の一人、神通力第一の目連尊者のお話です。ある日、目連は神通力を使い、優しく亡き母を捜しました。しかし、天上界に生まれていったと思っていた母はそこにはおらず、上から順に懸命に探して行きました。がなかなか見つけれられません。そして、まさかここにいるはずはない、と思った一番下の地獄界の餓鬼道に、骨と皮だけになって苦しんでいる母を見つけたのでした。目連は急ぎ食べ物を与えようとするのですが、差し出す物は全て燃えてしまい途方に暮れてしまいます。

どうしたらいいのか相談してきた目連

(2ページへつづく)

「世界の平和と寺院建立祈念シドニーマラソン募金」の受付を行っています。ご賛同頂ける方は、開教事務所の口座までご寄付されるか、郵送で小切手をご送付下さい。宜しくお願い致します！
合掌

もくじ

2019年お盆法要	1-3
お寺の予定表	1
お盆の法話	1-3
今月のことば	3
カウラ桜祭法要	3
スク립チャー	4
チャットウッドの祭り	4
シドニー寺院建立祈念マラソン	4
祥月の案内	4
ご懇念録	4

★ お寺の予定表 - Calendar ★

Sep	1	(Sun)	11:00 am	九月祥月法要/September Shotsuki Memorial Service
	8	(Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	14	(Sat)	11am-6pm	Matsuri in Chatswood 2019 / チャットウッド日本祭り
	15	(Sun)	7:15 am	平和と寺院建立祈念シドニーマラソン/Sydney Marathon
	21	(Sat)	11:00 am	合同教会にて国連平和の日の集い/UN Peace Day Service
	22	(Sun)	11:00 am	春季彼岸会/Spring Equinox Day Service
	23	(Mon)		[本願寺報発行 / New Bulletin Issue]
	29	(Sun)	10:00 am	カウラ桜祭追悼法要/Cowra Service of Respect
Oct	6	(Sun)	11:00 am	十月祥月法要/October Shotsuki Memorial Service





「すべては関係性の中で、お互いに相支え、相支えられつつ生かされている、と言ういのちの見方を仏教では大切にしています。この私の「いのち」は、空間的にも時間的にも思いも及ばない程の多くのものに支えられ、連帯し合っ

て存在しています。」



開教事務所入口に置かれたお盆法要の案内



にお釈迦様は、「息子のお前には優しくなかったお母さんではあったが、他の人と分かち合うことをしなかったために餓鬼道という地獄に落ちなければいけなかったのだ。」と説明され、「お母さんに代わり全ての人たちに食べ物を施すことによりお母さんは救われて行くであろう」と説かれたのでした。

その言葉に従い、安居(あんご*1)と言う夏の勉強会の終わった日にお釈迦様のお弟子さんみんなを招待し、沢山の食べ物を施したのでした。その行為により、お母さんが救われて行ったのを見て、目連は小躍りして喜んだのでした。そして、それが盆踊りの起源となったのでした。「自己中心で、自分だけの事ばかり考えないで、みんなのことを考えるようにしましょう!」ということをごにこで私たちに教えています。

とのメッセージを子供たちはしっかり受け止めてくれました。

英語法話の後の日本語法話では、お盆にあたり、自分のいのちを見つめ、そして全ての生きとし生けるもののいのちを如何に受け止めるべきかについて教典の言葉を引用し、次のようにお話しさせて頂きました。

《独生 独死 独去 独来》

『人、世間愛欲のなかにありて、独り生れ独り死し、独り去り独り来る』

(仏説無量寿経)

「人間は、欲望に満ちたこの世に、ひとりで生まれ、ひとりで死に、ひとりで去り、ひとりで来る。」

これは、仏説無量寿経の中にある、お釈迦

*1 安居(あんご)とは、僧侶が一定期間、外に出ずに屋内にこもり修行を行うことを指しますが、元来安居とは仏教の始まりの地であるインドにおいて、雨季に増える虫への不用意な殺生を避けるため、一定期間は外出せずに、これを良い機会として御堂において皆で修行を行ったことがはじまりと言われています。



目連は餓鬼道に落ちていた母の元に駆け寄り食べ物を口に運ぶのですが、全て火に包まれてしまったのでした。



(上)お焼香する由信君、(下)娘君(11/08/19)



さまのお言葉です。

私たち人間がつくりだす世界は色欲、金銭欲、名誉欲など様々な欲望にあふれた世界でもあります。その欲望を支えているのは愚痴(ぐち)というものであり、愚痴とは自分本位のものの見方という意味があります。

この私は自分本位のものの見方しかできないがゆえに、自分に都合の良いものを、他を押しつけてでも際限なく欲しがり、逆に都合の悪いものを嫌い、排除しようとしたり、差別したりする中で、お互いがいのちを傷つけ合い、私たち自身で多くの苦しみを生み出している現実が人間の世界でもあります。そういう世界にあって、人はたったひとりで生まれ、たったひとりで死んで行かなくてはなりません。

この「独生 独死 独去 独来」というお言葉には、私たち一人一人の存在の絶対的な孤独、ということをお示しになられているように思います。

私たちはこの世に家族があり、仲間がいて、大勢でにぎやかに生きているように思っていますが、どんなに大勢の人に囲まれても人間は本質的にひとりぼっちなのかもしれません。皆、たったひとりで生まれてきて、たったひとりで死んでいく。

人生とは大勢いる中でひとりぼっちになったわけではなく、もともとひとりぼっち同士がたまたま縁あって集まり、連帯しているにすぎないのでしょう。

だからこそ、お互いがそれぞれの立場や違いを越えて、共に認め合い尊敬し合うことの大切をお釈迦様は教えてくださっているように思います。

私にとって都合のいい人も、悪い人も、すべて私も含めた関係性の中にあるという「縁起」という視点を私たちは大切にしなければなりません。ここで質問です。

「あなたは誰かの大切な人になっていますか？」

大切な人とは、自分にとって都合のいい

人、という意味ではありません。

私にとって都合の悪い苦手な人であっても、すべて関係性の中でお互いに連帯し合って成り立っているのが「いのち」のですから、その「縁起」なるいのちにおいては、すべてが大切ないのちであります。

自分ひとりで生きている、そのもので成り立っているいのちなど何一つありません。

すべては関係性の中で、お互いに相支え、相支えられつつ生かされている、といういのちの見方を仏教では大切にしています。

この私の「いのち」は、空間的にも時間的にも思いも及ばない程の多くのものに支えられ、連帯し合って存在しています。その「いのち」の真実に気づかされ、他者を尊敬し大切に思うとき、本当の意味で私も誰かの大切な人となるのではないのでしょうか。

南無阿弥陀仏



お焼香し合掌する齊藤真由美さん(11/08/19)

無事に法要を終え、仏前で全体写真を撮った後は、待ちに待ったお斎の時間、皆様が持ち寄って下さったご馳走を堪能させて頂きました。お昼をご用意頂いた、グスナー多恵さん、三井ブラウン綾子さん、フォング・ノーマンさん、齊藤真由美さん、ウォング理佳さん、齊藤直子さん、シャーマン・ジョナサンさん、そして家内の由紀美へお礼申し上げたいと思います。そして、一緒に集ってくれた我が家の子供たち由信君、亜美ちゃん、頌君、ようこそのお参りでした。



お持ち寄り下さいましたお斎に舌鼓を打たせて頂きました！ご馳走様でした！(12/08/18)

この日お参り下さいました皆さんのお陰をもちまして、今年度のお盆法要も無事に終わることが出来ましたこと本当に有り難く思っております。また今後の法要もどうか宜しくお願い申し上げます！

合掌

オーストラリア開教事務所 所長 渡部重信



カウラ ブレイクアウト

75周年桜祭り追悼法要

於：カウラ戦争墓地 2019年9月29日(日)



ブレイクアウトから75年目となる今年も、カウラ戦争墓地にて、カウラ桜祭りの最終行事である追悼式典が9月29日に行われます。ブレイクアウトの際に亡くなられた豪州兵、日本兵達、オーストラリアで亡くなられた同胞のお墓の前での追悼式典です。日本人墓地の方では、渡部開教使が仏式の法要を営まれます。もしご興味があったら一緒にいきたいという方がございましたら、開教事務所までお知らせ下さいませ。

合掌



今月のことば

親鸞聖人
しんらんしょうにん

一一七三年～一二六三年

涅槃の真因は
ただ信心を
もつてす



Shinran Shonin
(1173-1263)

“The true cause of
attaining nirvana
is the
entrusting heart alone.”



(真宗教団連合刊「2019法語カレンダー」より)

仏教スクリプチャークラスでお盆のお話



8月はお盆の月と云うことで、中国仏教でも盂蘭盆節、あるいはゴーストフェスティバルとして知られていますので、生徒達に紹介すると、何人かの生徒は聞いたことがある、とのことでしたが、詳しくは知らなかったもので、目連尊者とお母さんのお話を聞かせてシェアすることの大切さ、お母さんの事を思う大切さ等を伝えました。



合 掌



チャッツウッド日本祭

9月14日(土曜日)

午前11時より午後6時まで



今年も日本のお祭りがチャッツウッド駅前の通りで開催されます。日本食店、日本の小物販売店、書道、華道、茶道などを紹介する日本文化紹介ブースが並び、ステージでは様々な日本のパフォーマンスが繰り広げられます。どうぞお誘い合わせの上お越し下さい。



42.195
KMS

平和と寺院建立祈念のための

シドニーマラソン募金

9月15日(日)午前7時15分



来たる9月15日(日曜日)に行われるシドニーマラソンに渡部開教使が再び出走します。



15 SEPTEMBER 2019

世界の平和と、オーストラリアでの寺院建立祈念の為に走るこのイベントに寄付をと思われる方は、「Peace Run」と明記された上で下記口座までご入金下さるようお願い申し上げます。

Account name: **Hongwanji Buddhist Mission of Australia**
BSB No: **032-197**
Account No: **48-1501**
Description: **Peace Run**



九月の祥月法要

September Shotsuki Memorial Service

Okuyama, Ayako

奥山 綾子 様 (2006)

Natsume, Emiko

夏目 笑子 様 (1988)

Hayashi, Masao

林 正男 様 (2003)

上記の方々が9月に祥月を迎えられます。ご家族、或はご縁のございます方は、来月9月1日午前11時に、お勤めされます祥月法要にどうぞお参り下さいませ。

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude



この一ヶ月間で、下記の方々より総計 1,715.00ドルのご懇志をご進納頂きました。また、お賽銭箱には、計32ドルが浄財として参拝者より喜捨して頂いており、これは本願寺設立基金へ進納されました。有り難うございました。合掌

In the past month, donations to the amount of 1,715.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia.

HBMA members and attendants have also deposited 32.00 in the donation box which deposited to the Hongwanji Temple of Sydney Building fund.

The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Mr Graham Ranft — Membership contribution
- * Adelaide Members — Special contribution
- * Mr Chi Yhun Lo — Father (Henry Lo)'s funeral
- * Mrs Ayako Mitsui-Browne — Special donation for Obon and weekly contribution
- * Ms Hitomi Howard — Shotsuki memorial service
- * Mr Jonathan Shearman — Special contribution for Obon
- * Mr Toshiya Yamada — First Obon Service for Mother
- * Ms Yuka Fujita — Flowers for the Shrine
- * Ms Eriko Ishida — Flowers for the Shrine
- * Japan Club of Sydney — Printing honourarium
- * Buddhist Council of NSW — Chaplain Fund

Thank you very much in Gassho





Rev Watanabe attended Chaplaincy Meeting at the Royal North Shore Hospital

on Monday 26 August
at the Vanderfield Building Meeting Room



As a part of Chaplain activities, Rev Watanabe was asked to attend the RNSH Chaplaincy Meeting on behalf of Buddhist faith.

We discussed some ongoing issues that we should negotiate hospital to improve chaplaincy activities of all faith groups, organised by Rev Keith Walker, Coordinator of RNSH Chaplain department. In Gassho,



Rev Keith Walker, one of the full time chaplains from Royal North Shore Hospital chaired the meeting (26/8/19)



BULLETIN

Please Join in to Matsuri Japan Festival In Chatswood on Saturday 14 2019



Please join in to the Cowra Service of Respect Sunday 29 September



This is the 75th Anniversary year since the Cowra Breakout took place in 1944.

The Memorial Service of Respect, the final ceremony of the Cowra Sakura Matsuri Festival 2019, will be held from 10:00 am on Sunday 29 September at the Cowra Prison of War Cemetery.



Rev Watanabe chanting Sutra
at Cowra POW Cemetery

You are most welcome to join in this one day trip. We have few seats left for those people. Please contact HBMA office if you are interested in!

In Gassho,



Buddhist Scripture Class at Gordon West Public School



During the month of August, scripture class students in Gordon West Public School learned about the original story of Obon/Ullanbana, listening to the story of Mokuren/Moggallana/Maudgalyayana and his mother from Rev Watanabe. Children also learn one sacred message from Buddha's teaching each week.

In Gassho,



Every year, I look forward to Obon as I feel gratitude toward my ancestors because this tradition has been transmitted to us, from them. Although I am still young in spirit, I am getting close to the age of 60. The older I get, the more I feel my debt to my parents and grand-parents, and so on... for the existence my present life.

Sho offering incense

I sometimes think back to when I was a child. It was great fun. Every day was like a new adventure. I did not realise then that childhood was a bright and golden time. Losing my grandmother when I was 14 was my first experience to lose a close family member. I felt loneliness. I took my grandmother's love and affection for granted. It took a while, but I came to understand that her love was very precious and wondrous. Although she was gone, I feel she watches me with smiles in my memories.

As the Lager Sutra says,

“Further, in the midst of worldly desires and attachments one comes and goes alone, is born alone, and dies alone”.

On the other hand, as Sakyamuni said, we are interconnected. When the light of Buddha's great wisdom and compassion shines upon us, we can realise that we are not alone. Please remember your deceased loved ones. They will be smiling in your memories. They have already gone, but they are still living in our hearts and minds. When they live in our hearts, we are never alone. They are always watching us as Buddhas.

“Buddha has no shape or colour, and since Buddha has no shape or colour, Buddha comes from nowhere and there is nowhere for him/her to go. Like the blue sky, Buddha arches over everything”.

(The Teaching of Buddha, page 27)

As long as we remember the deceased, they are always with us, and guide us with the great wisdom and compassion called Amida. As we are allowed to live with many benefits, like sunlight, we are always bathed by the great Buddha's compassion. His wisdom is light.

Shinran Shonin wrote the following verse:

“Seekers with the burden of evil karma should simply say the Name (Namo Amida Butsu)”

Realising that they, too, are embraced by the light, And that although their ignorance and blind passions prevent their seeing it,

The light of great compassion nonetheless constantly shines on them”

(Shoshinge, Shin Buddhist Service Book, page 87)

Ms Mayumi Saito offering incense

Obon is a good opportunity to realise Buddha's compassion and wisdom. Please enjoy the festival and celebrate our interconnectedness with gratitude for your deceased loved ones.

Namo Amida Butsu
In Gassho,

The Dharma message was followed by a Japanese message. Then we all sang “Ondokusan”, and the Obon service was concluded.

After the service, we all enjoyed a Potluck lunch all together, like Sakyamuni Buddha's disciples receiving Mokuren's offering.

All attendants were enjoyed food and conversation. (11/08/19)

A big “Thank you” goes to **Ms Ayako Mitsui-Browne, Ms Mayumi Saito, Ms Rika Wong, Mr Norman Fung, Ms Naoko Saito, Mr Jonathan Shearman, Ms Tae Gessner, finally Yukimi Watanabe**, for your wonderful contribution towards this “Gathering of Joy”!

We all enjoyed delicious Potluck lunch!. (11/08/19)

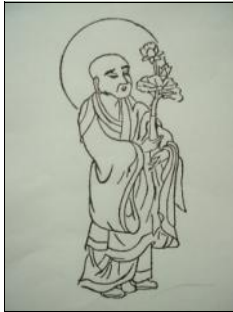
Because of the participation of each of you, we were able to successfully observe this year's Obon Service. All of your support is much appreciated and we will ask for your continuous support for our mission. Hope to see you again soon.

In Gassho,

Rev Shigenobu Watanabe



According to the Ullambana Sutra, one day Mokuren was reflecting upon his beloved mother who had already passed away. At that time, a question came to his mind, "Where did my mother go, and what is she doing now?" He had supernatural powers, which he had obtained through his hard practices, so he was able to see people who had already passed away. Mokuren was able to use this power to search for his beloved mother.



Mokuren
(Maudgalyayana)



Mokuren tried to feed his mother but food was all burnt.

Mokuren thought that as his mother was so good, she must be in a heavenly world. First he searched there but could not find her, then he tried to see the second heaven, - again he was not successful. He tried to see another lower world. But still he could not find her, he searched through all the worlds until finally he found her. Alas! It was a big and sad surprise for Mokuren that his mother was suffering in the hell of hungry demons.

It was an unbelievable scene for him. His mother was very skinny and almost just flesh and bone. Mokuren rushed to her trying to offer some food, but it caught fire before his mother could put it into her mouth. He tried many times but nothing worked. Mokuren had no idea what to do, so he went to see Sakyamuni Buddha.

Buddha listened to the story, and then told Mokuren why his mother was born into such a world:

"Mokuren, your mother is suffering right now, because she did something wrong when she was in the human world".

But, Mokuren could not believe it and said:

"She was always a very kind and wonderful mother, what did she do?"

Sakyamuni said, "I know she was really a wonderful mother, but she was good only to you, not to others. Whenever she had something good, she hid it from others and gave it to you, Mokuren. Your mother never shared things with others."

Mokuren said, "Is it because of me?"

"Yes, Mokuren." Buddha replied, "She loved you too much".

Mokuren then asked, "What can I do for her?"

Buddha said, "There is a way to save your mother. Because she did not share things with others, she went to the hell of hungry demons. Therefore, if you offer and share things with others on behalf of your mother,



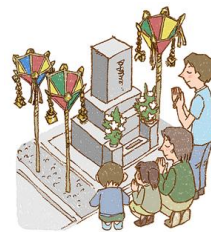
Mr Norman Fung offering the incense. (11/08/19)



BULLETIN

and if they are pleased, then your mother will be all right."

In accordance with Buddha's word, Mokuren prepared many kinds of food and shared it with all the Buddha's disciples on the last day of their summer study meeting on 15 August. They ate everything and all the disciples were very pleased. Then Mokuren was finally able to see his mother's peaceful smiling face. Mokuren was very happy as he jumped and danced with joy!



Since then, every year on the same day, the same thing has been done. This is the origin of the Obon and the Obon dance.

As I write this article, I wonder if we are still doing the same thing as Mokuren's mother. Whenever we get something good, we don't share it with others, but only share it with our children. From the Buddha's point of view, all human actions are beset with selfishness. So we can't count how many selfish acts we make for the sake of our children, family or loved ones. These actions may commit us to the Hell of hungry demons. The only way for our salvation is to encounter the Vow of Amida Buddha; to encounter the teaching of the Nembutsu, and live the life of appreciation, embraced in the arms of Amida Buddha.

Let us recite Namo Amida Butsu showing our appreciation to Amida Buddha who works all the time for us all. - Namo Amida Butsu - .

After sharing a Dharma message for children, I talked to the adults as follows.

Obon 2019

"In the midst of worldly desires and attachments one comes and goes alone, is born alone, and dies alone".

Welcome to the Obon service. As you may know, Obon is a very important opportunity to remember those who have gone before us with gratitude for enabling us to exist and to encounter the Dharma. This occasion came from a Buddhist story from the Ullambana Sutra. Ullambana means to suffer as if being hung upside down.



Mr Jonathan Shearman offering incense (11/08/19)

(Continues on page 3)

BULLETIN

Successful Annual OBON Service 11 August 2019



(Back row L-R) : Sho Watanabe, Mr Norman Fung, Ms Mayumi Saito, Mr Jonathan Shearman, Ms Rika Ueno-Wong, Yukimi and Rin Watanabe, (Front row L-R) Ms Tae Gessner, Yushin Watanabe, Ms Naoko Saito, Rev Watanabe, Ms Ayako Mitsui-Browne. (11/08/19)



On 11 August, we observed the Annual Obon(Kangi-e) / Ullambana service with our members and supporters.

We were able to observe this year's Obon service with 12 people. We welcomed new Dharma friend **Ms Tae Gessner, a Kimono Master** who's son, Mr Joshua Gessner just started new career as a U.S. major leaguer!

We also welcomed regular Dharma friends **Ms Ayako Mitsui-Browne, Ms Mayumi Saito, Mr Jonathan Shearman, Ms Rika Ueno-Wong, Mr Norman Fung and Ms Naoko Saito.**

The Obon service is a wonderful occasion for rejoicing in the awakening offered by the Buddha, and this is also an opportunity to express our gratitude not only to our ancestors, but also to all who have passed on into Amida Buddha's Jodo (Pure Land). Therefore, Obon is often referred as **Kangi-e (歓喜会)**, which means

Ms Tae Gessner offering incense wearing beautiful Kimono on this Obon day (11/08/19).



HBMA Shrine was decorated for Obon Service. (11/08/19)

Volume 20 - No. 8
28 August, 2019

Hongwanji Buddhist Mission of Australia



PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mobile : 0412-396-014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au

Inside This Issue

Successful Annual Obon service 2019	1
Fund Raising Appeal - Sydney Marathon	1
Obon story for children & message for the adults	1-3
RNSH Chaplain meeting/2019 Cowra Service of Respect	4
Chatswood Matsuri Festival / Scripture Class Report	4

We started the service at 11am. After chanting the Amida Sutra, we took it in turns to offer incense.

For the children's Dharma message, I introduced the famous Obon story about Mokuren (Maudgalyayana Sanskrit / Moggallana Pali) and his mother.



At the entrance of HBMA (11/08/19)

Origin of Obon /Kangi-e

One of the ten great disciples of Sakyamuni Buddha was Mokuren, who loved his mother, because his mother loved him very much.

(Continues on page 2)



**Run for PEACE on 15 Sep &
Run for the future of HBMA**



Rev Watanabe will join the Sydney Running Festival on 15 Sep and will run 42.195km once again for the **World Peace** and also **the future of Hongwanji Buddhist Mission of Australia!** If you wish to donate for this event to support Reverend's run, please make a donation to the following account: **Account name: HBMA**

BSB 032-197 Account No: 48-1501 Description: Peace Run

In Gassho,

